

こんばんは 遠友塾です！

札幌遠友塾 受講・スタッフ・見学希望はこちらまで

「札幌遠友塾自主夜間中学」は、ボランティア・スタッフが運営している自主夜間中学です。これまでさまざまな理由で義務教育を十分に受けることが出来なかった500人以上の人たちが学んできました。遠友塾は1990年にスタートし、36年目を迎えました。2009年から皆様のお陰で、札幌市立向陵中学校の教室で、毎週水曜日の夜に授業を行っています。

事務局長 中島圭子 電話：090-7645-7681

代 表 黒澤晴一 電話：011-827-8072

札幌遠友塾創立35年記念 「かでの2・7、チカホ憩いの空間での展示」

8月2日から29日まで、「かでの2・7」9階の「まなびの広場」で、札幌遠友塾創立35年を記念した展示を開催しました。「パネル写真」「遠友塾のあゆみ」や「授業の時程、授業内容」をパネルにしたものや、これまで作成された「記念文集」「卒業文集」、「表彰物」を展示しました。

また、9月5日、6日の2日間、チカホ「憩いの空間」で、パネルを展示して、札幌遠友塾の活動を紹介しました。創立以来、初めての試みでしたが、今回の反省を次の展示活動に生かしていきたいと思います。



じっくりクラス「理科授業」 テーマ：「ダンゴムシの迷路実験」

9月3日、じっくりクラスで、理科の授業が行われました。テーマは「ダンゴムシの迷路実験」。はさみとセロテープで楽しみながら迷路づくりをしました。実際にムシが迷路をどのように歩くか観察しました。ムシが苦手な人もいましたが、みんなで協力して何度も実験して、ムシが右折するか左折するかデータを取りました。天敵が多いダンゴムシは、自分を守るために、壁にあたったとき、左右に交互に曲がり、敵から逃れる行動をするということがわかりました。



1年クラス 授業風景

4月9日の入学式には、半数ほどが再履修で、半数ほどが新しい入学生でした。その後1、2ヶ月ほど受講生の増減がありましたが、今現在、受講生は21名、それにスタッフが17名です。

まず、国語の授業の様子です。最初に詩の朗読から始まります。はじめに受講生が一人で朗読します。皆さん練習してくるのか、なかなか大したものです。中には感想を述べる人、自分が朗読する詩を自分で選んでくる人など積極的です。その後、みんなで朗読です。

数学は、たし算、ひき算から始まります。それを、タイルを使って説明し、ゆっくりゆっくり進みます。説明のあと問題を解く段になると、スタッフがみんなで、赤ボールペンを持って○つけをします。

英語は、英語の歌から始まります。まだA, B, Cやローマ字を勉強している段階なので大変ですが、受講生さんからは、英語の歌を歌ってみたい、簡単な英会話ができるようになりたい、という希望がでています。地下鉄駅のローマ字表記もやっと読めるようになります。

社会は、他学年の黒澤さんのお世話になっています。授業は、いつも画面に映し出された資料などでわかりやすく、また、途中で三択のクイズ問題が出され、正解者には飴が当たる楽しみもあります。このときは受講生だけでなくスタッフも参加しています。



英語の発音練習

「特別授業」2025

「朗読と演奏」

9月24日、教育文化会館で「あの戦争と北海道」と題された特別授業がありました。内容は、北海道出身の作家で、今年1月に亡くなった菊地慶一さんの作品を工藤ひろ子さんの朗読で鑑賞することと、さらにSさんのアイリッシュハーブの演奏も鑑賞し、また一緒に歌う、というものでした。

第1部は、「流水はたるの海」の朗読。この作品は、ある番屋守と沖縄戦に行った息子の物語です。アイリッシュハーブの演奏は「埴生の宿」「庭の千草」などを聴かせてもらいました。休憩時間には、アイリッシュハーブに触ったり音を出したりと和やかな雰囲気でした。第2部は、「十本の松葉づえ」の朗読。7月15日の北海道への空襲で足を失った母の物語です。その後、ハーブやオカリナの伴奏で「もみじ」「手のひらを太陽に」などの歌をみんなで歌いました。戦争にまつわる作品の朗読の中で、北海道石狩の空襲で犠牲者が多くあったことや、当日配布の北海道空襲犠牲者数が地図上に示された資料は衝撃的でした。最後にじっくりクラスの西谷優羽さんがお礼の言葉を述べて、特別授業は終わりました。



「北海道夜間中学交流会・35年の集い」

9月13日（土）に「北海道夜間中学交流会・札幌遠友塾35年の集い」が「札幌市教育文化会館」で、北海道教育委員会と札幌市・小樽市・函館市・旭川市・苫小牧市・帯広市・釧路市の各教育委員会の後援をいただいて開催されました。参加者は、オンライン参加を含めて130名。札幌遠友塾受講生さん・同窓生さん、札幌市立星友館中学校の生徒さん、函館・旭川・釧路の自主夜間中学関係者と生徒さん、各界議員、教育委員会関係者、星友館中学校の山田哲也校長先生・藤田哲至教頭先生にご参加いただきました。前半の「交流会」では各地区自主夜間中学の受講生さんや生徒さんが体験発表を行いました。

「35年の集い」では、工藤慶一・朱美ご夫妻、横山晴美さん、宮田友子さんに感謝状が贈呈された後、函館遠友塾菅原代表の乾杯で遠友塾の創立35年を祝いました。



活動報告(星友館中学 山田校長)



工藤慶一さんに感謝状を贈呈

社会見学 札幌ノーモアヒバクシャ会館

「核兵器のない世の中を」

10月12日、今年は被爆80年の節目にあたることから、「北海道ノーモア・ヒバクシャ会館」を受講生18名・スタッフ26名が見学しました。この会館は、被爆者の苦しみや願いに応えた多くの人々の協力により1982年から建設の動きが始まり、9年にわたる運動の中で、国内外の3万人を超える人々の寄付で建設が実現したそうです。

「10秒間の衝撃」「平和の祈り」のDVD鑑賞では、灼熱の火球の中心温度百万度という強烈な熱線と爆風で、人間は溶け建物はなぎ倒される映像に、息が止まる思いでした。「一瞬にして、広島で14万人、長崎で7万4千人の人が犠牲になった」、語り部の宮本須美子さんは「この世の地獄!」と声を絞り出しました。宮本さんは名古屋に住んでいましたが、連日の空襲で焼け出され、母親の両親が住む長崎へ…8月9日長崎市に原爆投下、爆心地から6キロ地点で宮本さんは被爆。それから今日まで、誹謗中傷を受け長く辛い日々を過ごしてきたとのこと。「正義の戦争なんてないのですよ。核兵器のない、平和をもとめる未来になってほしい。」と述べ、宮本さんは語りを締めくくりました。



遠足「北海道大学植物園」

7月6日の日曜日に札幌遠友塾自主夜間中学の「遠足」が「北海道大学植物園」で行われ、52名が参加しました。晴天、最高気温が32度を超える暑さのなか、植物園正門横の日陰で集合。北ローンの日陰に敷物を敷き、荷物を置いてから、クラスごとに出発しました。主にバラ園、草木分科園、北方民族標本園などを散策してから、北ローンに戻ってゆっくりと昼食。

最後は、博物館前でクラスごとに記念写真を撮影して解散。その後、博物館を見学する受講生さんが多くいらっしゃいました。なかなか植物園に入る機会がなかったという方が多く、植物園内は涼しいと好評でした。しかし、行き来の暑さがきびしかったという声もあり、次年度は5月から6月初めの実施を考えています。

